

分野	専門基礎分野	授業科目	看護構造機能論Ⅰ	
受講学年	1学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	<p>日常生活行動を支える人体諸器官の1構造と機能について、系統立てて理解する</p> <p>生命を維持する働き(呼吸系・循環器系)、食物を消化・吸収・代謝する働き(消化器系)について理解する。</p>			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1～5	循環器系	1. 心臓の構造とポンプ作用 2. 心機能調節の仕組み 3. 冠状動脈 4. 血管壁の構造 5. 全身の血管系 6. 血圧調節の仕組み 7. 静脈環流の仕組み 8. 末梢循環 9. リンパ系	講義	<ul style="list-style-type: none"> 教科書を繰り返しよく読む わからない単語はすぐに辞書等で調べて書き込む 構造や働きなど、イメージ化しにくいところは、図書室にあるDVDなどを活用し理解する 各章の最終ページにあるゼミナール復習と課題を答えられるように理解する。
6～8	呼吸器系	1. 血液ガスについて 2. 上気道の解剖学的構造 3. 気管・気管支・および肺の構造 4. 換気およびガス交換の仕組み 5. 呼吸調節機構	講義	
9～14	消化器系	1. 消化管の基本構造 消化管とは 食べるシステム(咀嚼・嚥下) 2. 消化と吸収 胃・十二指腸・空腸・回腸の構造と機能 3. 排便のしくみ 結腸・直腸の構造と機能 4. 消化と吸収 肝臓・胆嚢の構造と機能 5. 消化と吸収 膵臓の構造と機能 消化器系の血管構造 6. 腹膜と腹腔	講義 小テスト	
15	テスト まとめ	配点:循環器35点 呼吸器20点 消化器 45点 合計100点		
評価方法	筆記試験 課題提出状況			
テキスト	医学書院 系統学看護学講座 専門基礎1 「人体の構造と機能1 解剖生理学」 メディックメディア 病気がみえる1消化器 2循環器 4呼吸器			
参考図書文献	南江堂 ネットー 解剖学アトラス 医学書院 目でみるからだのメカニズム			
備考	解剖生理はすべての学習の基盤となる重要な内容です。 病理、薬理、栄養と代謝、疾患と治療、看護過程の展開 などその後の授業につながっていきます。 繰り返して学習し、きちんと理解しましょう。			

分野	専門基礎分野	授業科目	看護構造機能論Ⅱ	
受講学年	1学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	日常生活行動を支える人体諸器官の1構造と機能について、系統立てて理解する 内部環境を調整する働き(内分泌系・腎臓・体液・男性生殖器)、生体を防御する働き(血液・免疫系・皮膚)、順応と適応の働き(感覚器系)について理解する。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1～5	血液と体液 免疫	1. 生命における水の役割 2. 細胞内液と細胞外液 電解質 ホメオスタシス 3. 血液の役割 4. 造血の仕組みと、各血球成分の機能 5. 血漿成分の種類とはたらき 6. 血液凝固の仕組み 7. 血液型と輸血 1. リンパ球の機能 2. 液性免疫 3. 細胞性免疫 4. アレルギー	講義	・教科書を繰り返しよく読む ・わからない単語はすぐに辞書等で調べて書き込む ・構造や働きなど、イメージ化しにくいところは、図書室にあるDVDなどを活用し理解する ・各章の最終ページにあるゼミナール復習と課題を答えられるように理解する。
6～11	腎・泌尿器系 男性生殖器 内分泌系	1. 腎臓の構造(特にネフロンについて) 2. 尿生成の仕組み 3. 水および電解質の調節機構 4. 酸塩基平衡 5. 血圧調節の仕組み 6. 血液凝固の仕組み泌尿系の構造と機能 1. 男性生殖器の構造 2. 男性の生殖機能 1. ホルモンの定義・化学構造 2. 間脳一視床下部一下垂体型 3. 甲状腺・副腎・膵臓ランゲルハンス島 4. カルシウム代謝 5. 性ホルモン	講義	・クラッシーで問題を配信します。活用して理解につなげて下さい。
12	女性生殖器	1. 女性生殖器の構造 2. 女性の生殖機能	講義	
13～15	感覚器系 試験	1. 眼の構造と視覚 2. 皮膚の構造と機能 3. 耳の構造と聴覚・平衡感覚 4. 鼻の構造と嗅覚 5. 咽頭・喉頭の構造と働き 6. 口の構造と機能 配点:腎泌尿器 45点 血液 35点 感覚器 20点 合計100点	講義	
評価方法	筆記試験 課題提出状況			
テキスト	医学書院 系統学看護学講座 専門基礎1「人体の構造と機能1 解剖生理学」			
参考図書文献	南江堂 ネットー 解剖学アトラス 医学書院 目で見えるからだのメカニズム メジカルフレンド社 看護につながる形態機能学			
備考	解剖生理はすべての学習の基盤となる重要な内容です。 病理、薬理、栄養と代謝、疾患と治療、看護過程の展開 などその後の授業につながっていきます。 繰り返して学習し、きちんと理解しましょう。			

分野	専門基礎分野	授業科目	看護構造機能論Ⅲ	
受講学年	1学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	日常生活行動を支える人体諸器官の構造と機能について、系統立てて理解する 生活を作り出し、行動範囲を拡大する働き(骨格系・筋系)、人間を統合する脳の働き(脳・神経系)、人体各部の構造と機能(細胞・組織)について理解する			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1～3	細胞と組織 ホメオスタシス	1. 人体の基本構築について 2. 細胞・組織・器官・器官系という階層構造 3. 生命活動の基本法則としてのホメオスタシス 4. 生命の基本単位である細胞の構造と機能 5. 細胞膜の構造と機能 6. 遺伝子の物質的基礎と遺伝子発現のしくみ	講義	・教科書を繰り返しよく読む ・わからない単語はすぐに辞書等で調べて書き込む
4～6	骨格系	1. 骨学総論 カルシウム代謝 2. 骨学各論 3. 関節の構造と機能	講義	・構造や働きなど、イメージ化しにくいところは、図書室にあるDVDなどを活用し理解する
7～8	筋系	1. 骨格筋・心筋・平滑筋 2. 筋収縮のメカニズム 3. 骨格筋と腱・関節・靭帯・神経との関係 4. 筋学各論	講義	・各章の最終ページにあるゼミナール復習と課題を答えられるように理解する。
9～14	神経系	1. 神経系の構造と機能 1) 神経細胞および支持細胞 神経細胞の構造と機能 神経細胞での興奮の伝導 シナプスでの興奮の伝導 2) 神経系の構造 中枢神経系(脳と脊髄) 末梢神経系 2. 脊髄・脳の構造と機能 1) 脳の構造と機能 大脳、小脳、脳幹、間脳 2) 脳室と髄膜 3) 頭蓋骨 4) 血管系 5) 脳脊髄液系 3. 脊髄神経と脳神経の構造と機能 4. 脳の高次機能 5. 本能と情動行動 6. 運動機能と下行伝導道路 7. 感覚機能と上行伝導道路	講義	
15	筆記試験	配点: 細胞他20点 骨格・筋系 35点 神経 45点 合計100点		
評価方法	筆記試験			
テキスト	医学書院 系統看護学講座 専門基礎1「人体の構造と機能1 解剖生理学」 メディックメディア 病気が見える 7脳・神経			
参考図書文献	南江堂 ネットー 解剖学アトラス 医学書院 目でみるからだのメカニズム			
備考	解剖生理はすべての学習の基盤となる重要な内容です。 病理、薬理、栄養と代謝、疾患と治療、看護過程の展開 などその後の授業につながっていきます。 繰り返して学習し、きちんと理解しましょう。			

分野	専門基礎分野	授業科目	病理学総論	
受講学年	1学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 15時間	
担当者資格	医師	専門経験有無	有	
学習目標	病気のなりたちを理解する。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習指針
1	病理で学ぶこと 先天異常と 遺伝子異常	病気の原因 先天異常 遺伝の伝わり方 遺伝子異常 遺伝子疾患の診断	テキストと配布 資料を中心とした 講義で、時々 講演形式の スライド発表が 入る。	テキストを読み 章の最終ページ にあるゼミナール 復習と課題を答え られるようにする。 名簿順に7班に 分けて、1-7回 の範囲のゼミナール 課題を班ごとに班の 誰かが応えられるように して下さい。 どんなことでも 疑問点があれば 整理し、 質問できるように 準備する。
2	循環障害	心臓の仕組み 循環器障害 全身性循環器障害		
3	炎症と免疫	炎症の起こり方 炎症性疾患 免疫担当細胞 免疫学的記憶 免疫不全症		
4	膠原病	アレルギー 膠原病の原因 自己免疫疾患 移植と免疫		
5	感染症	主な病原体 宿主の防御機構 感染症の治療と予防 予防接種		
6	腫瘍	腫瘍の定義と分類 腫瘍の発症病理 腫瘍の診断と治療		
7	老化と死 代謝障害	加齢に伴う細胞、 個体の変化 痛風など物質の沈着 代謝障害の疾患 糖代謝異常		
8	試験 選択問題			
評価方法	試験 選択問題			
テキスト	病理学 系統看護学講座 医学書院			
参考書	エッセンシャル病理学 第6版			
備考				

分野	専門基礎分野	授業科目	病態関連図		
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間		
担当者資格	看護師	専門経験有無	有		
学習目標	関連図を用い、人体の構造と機能・疾病の成り立ち・回復の促進を関連づけて理解する				
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針	
1	関連図の考え方	関連図とは 看護と関連図との関係 関連図の学習の進めかた グループで症状の関連図を書いてみよう	講義 GW	関連図や解説文を自分で描きながら、考え方を身につけていく学習です。各自、教科書や参考書を活用し、写すのではなく、自分のわかる言葉で表現できるようにしよう。個別学習の時間もとりませんが、残りは宿題になります。	
2	関連図の考え方	症状の関連図を発表し考えかたを理解する	GW		
3	炎症	炎症の関連図をもとにその解説文を書く	GW		
4	炎症	炎症の解説文をグループで 確認し完成させる	GW		
5.6	肺炎	肺炎の関連図と解説文をグループで 確認し完成させる	GW		
7	肺炎	肺炎の関連図及び解説文の発表	GW		
8	肺炎	肺炎の関連図及び解説文の発表	講義		
9	悪性腫瘍	悪性腫瘍の関連図の解説文を グループで確認し完成させる	GW		
10	悪性腫瘍	悪性腫瘍の関連図の解説文を グループで発表	GW 講義		
11.12	肺がん	肺がんの関連図と解説文を作成	個人学習		
13.14	肺がん	肺がんの関連図と解説文を作成	個人学習		
15	肺癌 まとめ	肺がんの関連図と解説文を発表 関連図の考え方をつかって看護を考えていくには	個人学習 講義		
評価方法	肺癌の関連図・解説文の内容で評価する				
テキスト	照林社 自分で描ける病態関連図 医学書院 系統看護学講座 病理学 呼吸器 メディックメディア 病期が見える 呼吸器				
参考図書 文献	解剖生理学				
備考	★授業1～2回目 対症看護の教科書必要です				

分野	専門基礎分野	授業科目	微生物学	
受講学年	1学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 15時間	
担当者資格	臨床検査技師	専門経験有無	有	
学習目標	感染症の原因になる微生物の性質や感染のしくみを理解して、自分と患者さんを感染から守る知識と方法を学ぶ。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	微生物の基礎知識	微生物の種類、構造、形態や特徴、培養方法などの基礎を学ぶ。	講義	テキストの内容を確認して、要点を整理して理解する。 授業で配布する資料の整理。
2	微生物の基礎知識	微生物の種類、構造、形態や特徴、培養方法などの基礎を学ぶ。	講義	
3	感染と発症	感染の成立に必要な因子はなにか学ぶ。	講義	
4	感染と生体防御	生体防御のための免疫の種類や予防法を学ぶ。	講義	
5	微生物と感染症	感染症の基礎、感染症法、感染症の分類、疾患と原因微生物について学ぶ。	講義	
6	微生物と感染症	感染症の基礎、感染症法、感染症の分類、疾患と原因微生物について学ぶ。	講義	
7	感染と感染防御	感染制御のための滅菌、消毒方法。抗菌薬や予防のためのワクチンについて学ぶ。	講義	
8	テスト			
評価方法	一回のテストにより評価する。			
テキスト	辻 明良 著 新体系看護学 4 微生物学 メヂカルフレンド社			
参考図書文献	ユニバーサルプレコーション実践マニュアル 南江堂 系統看護学講座 微生物学 南嶋 洋一ほか 医学書院 病原菌・感染・免疫 藤本 秀士ほか 南山堂			
備考				

分野	専門基礎分野	授業科目	疾患と治療 I (呼吸器・循環器) NO.1	
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	健康障害のある成人の各機能障害・健康のレベルを理解し、それに応じた援助を学ぶ。 成人の循環器系・呼吸器系に生じやすい障害を理解する。 肺炎・肺がんの疾患のある患者の看護が理解する。 循環器系の症状・各疾患の病態のメカニズム、検査、治療、看護について理解できる			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	呼吸器系 解剖・生理	呼吸器系の解剖・生理の知識確認	講義 ミニテスト	看護構造機能論で学習 した範囲 復習テスト
2	呼吸器疾患の 代表的症状	喀たん血痰 咳嗽 胸水 呼吸困難 胸痛	講義	症状に対する知識確認テスト
3	呼吸器系の検査 治療 看護の特徴	血液検査 喀たん検査 胸水検査 画像検査 超音波 気管支鏡 呼吸機能検査 吸入療法 酸素療法	講義	呼吸器系の検査
4	肺炎 原因 病態	肺炎 原因 病理学的変化 成り行き	講義	関連図の使用
5	肺炎 検査・治療 看護	肺炎の検査 治療 看護	講義 ミニテスト	簡単な事例使用
6	肺がん 原因・病態	肺がん 原因 病理学的変化 分類 症状	講義 2人1組	
7	肺がん 検査・治療 看護	肺がんの検査 治療 看護	講義 ミニテスト	
8		筆記試験 50点満点(循環器と合わせて100点満点)		
9.10	主要症状と 看護	循環器の構造と機能(復習) 循環器疾患の特徴と看護の役割 循環器の主要症状のメカニズムと看護 ・胸痛 原因 誘因 特徴 看護 ・チアノーゼ 定義 分類 看護 ・不整脈 分類 徐脈性不整脈 頻拍性不整脈 症状 アダムスストークス症候群 主要な不整脈の波形・特徴・病態・治療 致死性不整脈 ペースメーカー	講義 ミニテスト	ミニテスト・宿題 など <復習内容> 心臓、動脈、静脈の構造と機能
11.12	血圧異常	血圧を調節する仕組みと変動因子(復習) 高血圧 分類 基準 随伴症状 病態 合併症 治療 看護	講義 ミニテスト	毎ミニテストをします。 予習、復習をしてください。 病理学総論の復習 対症看護の本を参考 病態関連図 <復習内容> 血圧を調節する仕組み
13.14.15	虚血性心疾患	心臓の栄養血管(復習) 定義 分類 病態(動脈硬化の危険因子) 狭心症 分類 (労作性・異型・不安定狭心症) 症状、検査所見の違いと特徴 診断・検査・治療・看護 心筋梗塞 病態 症状・検査所見の特徴 狭心症との違い 合併症 予後 診断・検査・治療・看護 心臓カテーテルによる検査・治療	講義 ミニテスト	<復習内容> 心臓の構造・栄養血管
8回	テスト	50点分(呼吸器と合わせて100点満点)		
評価方法	筆記試験			
テキスト	医学書院 成人看護学2 呼吸器 病態関連図 高木永子 監 看護過程に沿った対症看護 改訂版 学研 阿部 光樹 他 系統看護学講座 専門7 成人看護学3 循環器疾患の看護 医学書院		メディクメディア 病気がみえる4 呼吸器 病気がみえる2 循環器	
参考図書 文献	高木永子 監 看護過程に沿った対症看護 改訂版 学研 宮崎和子 編 看護観察のキーポイントシリーズ 改訂版 内科Ⅱ 中央法規			
備考				

分野	専門基礎分野	授業科目	疾患と治療Ⅱ	
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	健康障害のある成人の各機能障害、健康のレベルを理解しそれに応じた援助を学ぶ。 成人の消化器系に生じやすい障害を理解する。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	消化・吸収の復習 腹痛 吐血・下血	消化器の構造・機能 腹痛の発生機序と種類 吐血・下血の発生機序と特徴 出血時の内視鏡的治療と看護 吐血・下血の看護	講義	看護構造機能論Ⅱ：消化器の復習 症状別看護：嘔吐の復習 ：下痢・便秘の復習 随時、小テストの実施
2.3	消化性潰瘍	消化性潰瘍の発生機序 病理学的特徴と症状 診断検査と治療と看護 消化性潰瘍(止血)の看護	講義 ビデオ	病理学総論・臨床薬理学 復習 吐血・下血の復習
4.5	胃癌	胃癌の分類 胃癌の病理(症状と転移) 胃癌の診断検査と治療(内視鏡的)と看護 胃切除術の看護 術前－栄養状態の改善と消化管準備 術後－胃管腹腔ドレーンの管理 食事療法と看護	講義 関連図の 作成	病理学総論の復習 病態関連図の理解 治療論：手術療法の復習 吐血・下血の看護の復習
6.7	食道癌	食道癌の症状 食道癌の診断検査・治療・看護 手術前後の看護	講義	治療論：手術療法の復習
8	イレウス	イレウスの分類・症状 イレウスの診断検査と治療 イレウスチューブ挿入時の看護		
9	大腸癌	大腸癌病理(症状と転移) (主に直腸癌) 大腸癌の診断検査と看護 腹腔鏡下手術について	講義 関連図の 作成	病理学総論復習・病態関連図理解 *看護は成人看護学急性期へ *看護は成人看護学終末期へ
10	急性膵炎	急性膵炎の発生機序 急性膵炎の症状と検査所見 急性膵炎の治療	講義	
11	胆石症・胆嚢炎	胆石症の原因と症状 胆石症の診断検査・治療・看護 胆嚢炎の症状と治療		
12.13	肝炎	肝臓の構造と機能 症状：黄疸 肝炎ウイルスの診断検査と治療 急性肝炎 慢性肝炎 薬物療法(インターフェロン)	講義	腹水・肝性脳症・食道静脈瘤の 看護は成人看護学終末期で肝硬変 の看護で学習する
14	肝癌	肝癌の分類 肝癌の検査所見と診断 肝臓がんの治療と看護	講義	
15	まとめ・試験	各担当50点 合計100点		
評価方法	筆記試験 小テスト			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学5 消化器疾患者の看護 医学書院 病気がみえるVol. 1 消化器 第4版 MEDIC MEDIA			
参考図書 文献	宮崎和子 編 看護観察のキーポイントシリーズ改訂版 内科Ⅲ 中央法規 " 急性期・周手術期Ⅰ 中央法規 " 急性期・周手術期Ⅱ 中央法規 系統看護学講座 別巻1 臨床外科看護総論 医学書院 " 別巻2 臨床外科看護各論 医学書院 看護過程に沿った対症看護 改訂版 学研 堺 章 著 新訂 目でみるからだのメカニズム 医学書院			
備考				

分野	専門基礎分野	授業科目	疾患と治療Ⅲ	
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 15時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	自己免疫・血液系の各疾患と検査・治療について病態関連図を使い理解し、病気を回復するための援助や、障害を持ちながら生活していくための援助を考える基礎とする。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	血液の生理と造血のしくみ 血液疾患と治療の理解1	1. 血液の生理と造血のしくみ 1. 白血病の病態・治療・検査	講義	看護構造機能論Ⅱ 生体を防御する働き (自己免疫・造血器系)
2	血液疾患のある患者の看護	1. 白血病の看護 白血球減少のある患者の看護	講義	看護構造機能論Ⅱ 病態関連図 症状別看護
3	血液疾患のある患者の看護	1. 白血病の看護 出血傾向のある患者の看護	講義	看護構造機能論Ⅱ 病理学総論 病態関連図
4	血液疾患のある患者の看護	1. 白血病の看護 貧血のある患者の看護		
5	血液疾患のある患者の看護	輸血時の看護		症状別看護 症状に対する知識確認
6	血液疾患の理解2	1. 貧血 鉄欠乏性貧血 巨赤芽球性貧血 再生不良性貧血 溶血性貧血	講義	看護構造機能論Ⅱ 生体を防御する働き (自己免疫・造血器系)
7	血液疾患の理解2	1. 自己免疫系の疾患 全身性エリテマトーデス(SLE) HIV	講義	看護構造機能論Ⅱ 生体を防御する働き (自己免疫・造血器系) 治療論・症状別看護
8	試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	飯野京子編:系統看護学講座 専門⑧ 成人看護学[4] 血液・造血器, 医学書院. 岩田健太郎編:系統看護学講座 専門⑮ 成人看護学講座[11] アレルギー 膠原病 感染症, 医学書院. 坂井建雄編:系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学, 医学書院. 高木永子監修:看護過程に沿った対症看護 改訂版, 学研. 山岸節子編:自分で描ける病態関連図, 照林社.			
参考図書文献	医療情報化学研究所編:病気がみえる vol.5 血液, (株)メディックメディア. 医療情報化学研究所編:病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症, (株)メディックメディア.			
備考				

分野	専門基礎分野	授業科目	疾患と治療Ⅳ(腎・内分泌・代謝)	
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	腎・泌尿器・内分泌・代謝の疾患と検査・治療について病態関連図を使って理解し、病気を回復するためや障害をいながら生活していくための援助を考える基礎とする			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1～9	腎・泌尿器の基礎知識 主要症状 腎腫瘍 膀胱・尿管腫瘍 前立腺腫瘍 前立腺肥大 尿路結石 膀胱炎 糸球体腎炎 CKD 腎不全	腎・泌尿器の構造と機能 腎・泌尿器の検査(膀胱鏡など) 主要症状のメカニズムと看護 腎実質腫瘍(症状・検査・治療) 血管造影と看護 手術療法と看護 膀胱・尿管腫瘍(症状・検査・治療・尿路変更の看護) 前立腺腫瘍(症状・検査・治療) (前立腺肥大) 放射線療法・化学療法・手術療法と看護 尿路結石(症状・検査・治療) 膀胱炎(症状・検査・治療) 腎炎(IgAなど)(症状・検査・治療) 主要症状の看護 腎炎関連図 急性腎不全・慢性腎不全(症状・検査・治療) 透析:血液透析 CAPD 腎移植	講義	テストor宿題 看護構造機能論Ⅱの復習 病態関連図の復習 病理学総論の復習
10.11	内分泌器官の基礎知識 バセドウ病 クッシング病 (副腎機能低下症)	内分泌器官の構造と機能 バセドウ病(症状・検査・治療) 薬物療法と看護 手術療法と看護 クッシング病(症状・検査・治療)副腎機能低下症) 手術療法と看護	講義 グループワーク	テストor宿題 病態関連図
12.13.14	代謝の基礎知識 糖尿病	代謝の概要と機能 生活習慣病とは 痛風・高コレステロールについて 糖尿病の概要 検査—75gGTT・自己血糖測定 治療—食事療法・運動療法・薬物療法 (インスリン注射の実際) 合併症 糖尿病の看護 糖尿病関連図		
15	試験 まとめ	配点 1～11回分 70点 12～14回分30点 合計100点		
評価方法	筆記試験			
テキスト	阿部 信一 他 系統看護学講座 専門12 成人看護学8 腎・泌尿器 医学書院 黒江 ゆり子 他 系統看護学講座 専門10 成人看護学6 内分泌・代謝 医学書院 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病協会 文光堂			
参考図書 文献	塚 章 目でみる体のメカニズム 医学書院 坂坂 英二 監修 STEP内科③代謝・内分泌 第2版 海馬書房 西崎 統 他 JJNスペシャルNo.32 絵でみるホルモン 医学書院			
備考				

分野	専門基礎分野	授業科目	疾患と治療V	
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当資格	看護師、理学療法士 他	専門経験有無	有	
学習目標	1. 運動器・その他の主な検査・治療を受ける患者の看護が理解できる。 2. 運動器・その他の主な疾患の病態と症状・検査・治療・看護について理解できる。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	運動器の構造と機能 症状・検査	1. 運動器系を構成する器官と役割 骨、関節、神経、筋肉 2. 症状とその病態生理 疼痛、形態の異常、関節運動の異常 神経の障害、異常歩行 3. 運動器系の診察・検査 1) 画像検査: X線検査(単純・断層)、CT MRI、脊髄造影検査、シンチグラフィ 2) 電気生理学的検査	講義 他	解剖生理で 運動器を構成する器官 骨・関節の構造・機能 骨格系の機能 骨代謝、筋収縮を復習
2	主な治療法と その看護	1. 保存療法 ・ギブス包帯法の実際と看護 ・牽引療法の実際と看護 合併症: 末梢神経の損傷・循環障害 等 2. 理学療法と作業療法 3. 手術療法	講義 演習	看護構造機能論Ⅲ参照 四肢の骨・神経の走行 筋の構造 事前学習→課題
3	骨折(骨粗鬆症)	1. 定義・分類・症状・転位 2. 治癒過程、治癒の条件、異常治癒	講義	骨折の症状、治癒に影響 する因子、合併症
4	大腿骨頸部骨折	1. 病態・症状・検査・治療・看護 2. 骨粗鬆症の病態 3. 大腿骨頸部骨折関連図	講義	看護構造機能論Ⅲ参照 骨代謝、骨粗鬆症、ホルモンの影響
5.6	変形性膝・股関節症 腰椎椎間板ヘルニア 関節リウマチ	1. 病態・症状・検査・治療・看護 2. 人工関節全置換術を受ける患者の看護 1. 誘因・原因・病態・症状・治療・検査(脊髄造影) 2. 脊髄造影検査を受ける人の看護 1. 病態生理(自己免疫・炎症・関節機能の障害) 2. 症状・診断・治療(基礎療法・薬物療法・機能維持・回復) 3. 治療に対応した看護	講義 他	
7・8・9・10 理学療法士 作業療法士	リハビリテーション	1. 総論 2. 脳血管及び心疾患に対するリハビリテーション 3. 運動器疾患に対するリハビリテーション 4. 呼吸器疾患に対するリハビリテーション	講義 演習	
11	深部静脈血栓症 肺血栓塞栓症	・原因・病態・症状・検査(ダイナミックCT・Dダイマー) ・治療(ヘパリン治療) ・予防(弾性ストッキング、間欠的下腿圧迫法)・看護	講義	呼吸器の解剖生理の復習
12	インフルエンザ	・気胸の病態・症状・検査・治療・予防 ・胸腔ドレーンの管理	講義	
13.14	結核・気胸	・病態(ウイルスの分類と感染経路)・症状・検査・治療・予防 ・疫学・感染・発病・診断・症状・治療(化学療法と副作用) ・看護・検査(ツベルクリン検査、抗酸菌検査など) ・院内感染対策と予防	講義	
15	テスト・まとめ	配点: 運動器 60点 その他リハビリテーション以外 40点	試験	
評価方法	筆記テスト			
テキスト	加藤光宝 他 系統看護学講座 専門14 成人看護学(10) 運動器疾患患者の看護 医学書院 武田宜子 他 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 馬場元毅 著 絵で見る脳と神経 2004 医学書院 坂井建雄 他 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能[1] 医学書院 浅野浩一郎 他 系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学(2) 呼吸器 医学書院 滝澤始 他 病気がみえるVol.4 呼吸器 MEDIC MEDIA 林直子 他 成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周手術期看護 南江堂			
参考図書 文献	寺山和雄 監修 標準整形外科学 第8版 2006 医学書院適宜指示 諏訪赤十字看護専門学校 自分で描ける病態関連図適宜指示 2000 昭林社 黒澤尚 他編 新体系看護学全書25 成人看護学⑫ 運動器 メヂカルフレンド社 その他随時提示			
備考				

分野	専門基礎分野	授業科目	疾患と治療Ⅵ (脳・神経系)	
受講学年	2学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	・人間を統合する脳・神経系と感覚器の構造と機能を理解する。 ・感覚器および脳・神経系疾患の症状・治療・検査について、病態関連図を使い理解し、病気を回復するための援助や、障害を持ちながら生活していくための援助を考える基礎とする。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1,	脳・神経系の構造と機能	1. 脳・神経系の基本的構造と機能 2. 中枢神経系(脳) ①大脳(脳の機能の局在)②脳幹 ③小脳④大脳辺縁系⑤大脳基底核 3. 末梢神経系(脳神経) 4. 自律神経系 5. 神経伝導路 6. 脳の血管系(動脈系・静脈系) 7. 脳脊髄液循環	講義 講義	解剖生理学 頭頸部の骨格と筋 情報の受容と処理 臨床外科看護各論 脳および神経 同上
2, 3	障害および症状と病態生理	1. 意識障害 2. 運動障害(運動麻痺, 運動失調・筋力低下, けいれん, 不随意運動) 3. 高次機能障害 (失語症, 構音障害, 失認, 失行) 4. 感覚障害(知覚, 視覚, 聴覚, 味覚, 嗅覚) 5. 小脳障害 6. 頭蓋内圧亢進症状 7. 排泄障害(排尿, 排便障害)	講義	解剖生理学 頭頸部の骨格と筋 情報の受容と処理 臨床外科看護各論 脳および神経
4, 5	主な脳・神経系疾患の理解	1. 脳血管障害 (脳出血, 脳梗塞・クモ膜下出血他) 2. 頭部外傷(硬膜下血腫, 脳挫傷) 3. 脳腫瘍 4. 神経難病、神経・筋変性疾患 (パーキンソン, ALS, 筋ジストロフィー, 重症筋無力症, 多発性硬化症, 脊髄小脳変性症, 末梢神経疾患など) 5. 感染症患者の患者(脳炎, 髄膜炎)	講義	自分で描ける病態関連図 脳梗塞の病態関連図 臨床外科看護各論 脳および神経
6	主な脳・神経系疾患の診断・検査・治療	1. 手術療法(γナイフ 他) 2. 安静療法 3. リハビリテーション療法 (ADLの拡大・関節可動域訓練) 4. 酸素療法(HBO) 5. 薬物療法(利尿剤・ステロイド・抗血栓薬) 6. 食事・栄養療法(経管栄養法)	講義	臨床外科看護各論 脳および神経
	疾患の経過	3. 主な診断・検査 診断: 脳血管撮影, 脳脊髄液検査(腰椎穿刺) 筋電図, 脳波, CT, MRI, SPECTなど 神経学的検査 意識レベル(3-3-9度, G.C.S) ①急性期 ②回復期 ③慢性期 ④退院準備期		臨床外科看護各論 脳および神経
7	脳・神経系の機能障害のある患者の看護	A. 主要な神経症状および障害に対する看護 1. 意識障害のある患者の看護 2. 運動障害のある患者の看護 (運動麻痺, 運動失調, 筋力低下, けいれん, 不随意運動など) 3. 高次機能障害のある患者の看護 (失語症, 構音障害, 失認, 失行) 4. 感覚障害のある患者の看護 5. 小脳障害のある患者の看護 6. 嚥下障害のある患者の看護 7. 頭蓋内圧亢進症状を伴う患者の看護 8. 排泄障害のある患者の看護	講義	フィジカルアセスメント 運動器疾患患者の看護
8	脳・神経疾患患者の看護	B. 主な脳・神経系・筋系疾患患者の看護 1. 脳血管障害患者の看護	講義	自分で描ける病態関連図 P150~

		(脳出血、脳梗塞、クモ膜下出血など) 2.頭部外傷患者の看護 (硬膜下血腫、脳挫傷など) 3.脳腫瘍患者の看護 4.神経難病、神経・筋系疾患患者の看護 (パーキンソン、ALS、筋ジストロフィー、重症筋無力症、脊髄小脳変性症など) 6.手術療法を受ける患者の看護 (手術前・後の患者の看護) 7.保存療法時の看護(リハビリテーション看護を含む) (ADL評価・障害の受容の心理過程・など) 《演習》リハビリテーション看護技術		臨床外科看護各論参照
9	眼・耳・鼻・咽頭・喉頭・口腔・皮膚の構造と機能	1. 眼・耳・鼻・咽頭・喉頭・皮膚の基本的構造と機能	講義	解剖生理学
10		2. 視覚障害 1)視機能に関連した疾患および症状・検査・治療 疾患及び治療:白内障, 緑内障, 網膜剥離, 硝子体出血, 眼球破裂 症状:視力低下, 視野狭窄, 眼圧上昇 検査:視力, 眼圧, 眼底, 視野	講義	眼疾患患者の看護
11	眼疾患患者の看護	2)入院患者・手術を受ける患者の看護 (白内障, 緑内障, 網膜剥離, 硝子体出血, 眼球破裂)	講義	眼疾患患者の看護
12	聴覚および平衡覚障害のある患者の看護	3. 聴覚および平衡覚障害 1)聴覚および平衡覚に関連した疾患および症状・検査・治療 疾患及び治療:突発性難聴, 中耳炎, メニエール病 症状:聴力低下, めまい 検査:聴力, 眼振	講義	聴覚および平衡覚障害のある患者の看護 看護のための医学講座
13	鼻出血のある患者の看護	2)聴覚および平衡覚障害のある患者の看護 (突発性難聴, 中耳炎, メニエール病)		
14	皮膚疾患のある患者の看護	4. 鼻・咽喉・喉頭・口腔に関連した疾患および症状・検査・治療 1)嗅覚・味覚および鼻・咽喉・喉頭・口腔に関連した疾患および症状・検査・治療 疾患及び治療:鼻出血, 喉頭癌	講義	鼻出血のある患者の看護
15	まとめと試験	2)鼻出血のある患者の看護 3)喉頭全摘を受ける患者の看護 1)熱傷患者の看護 2)帯状疱疹・疥癬のある患者の看護	講義	皮膚疾患のある患者の看護
評価方法	筆記試験			
テキスト	武村信彦 著 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学7 脳・神経 医学書院 尾上尚志 他著 病気がみえるvol.⑦ 脳・神経 第2版 2017 メディックメディア 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 2018 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 2017 医学書院 新体系 看護学全書 成人看護学⑬ 耳鼻咽喉/歯・口腔 2018 メヂカルフレンド社 新体系 看護学全書 成人看護学⑫ 皮膚/眼 2018 メヂカルフレンド社			
参考図書文献	大岡良枝 他編 看護観察のキーポイントシリーズ 脳神経外科 1997 中央法規出版 適宜提示 山岸節子 他編 自分で描ける病態関連図 照林社			
備考				

分野	専門基礎分野	授業科目	臨床薬理学	
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	薬剤師	専門経験有無	有	
学習目標	臨床で使用する薬剤の知識とその薬理作用を理解する。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	薬物作用機序と臨床応用について理解する	薬はどのように作用するかを理解する	講義	・授業の内容・資料
2		薬はどのように体内をめぐるのか	講義	と合わせて教科書の該当ページをよく読む。
3		薬効に影響する因子	講義	章の最終ページの
4		薬物の有害作用はなぜおこるのか	講義	ゼミナールを答えられる
5		抗感染薬	講義	ように理解する。
6		消毒薬	講義	・カタカナの薬品名は
7		抗がん薬	講義	覚えにくい、工夫して
8		漢方薬	講義	薬効と合わせて
9		抗アレルギー薬・抗炎症薬	講義	覚えられるように整理する。
10		末梢での神経活動に作用する薬物	講義	
11		中枢神経系に作用する薬物	講義	
12		呼吸器・消化器に作用する薬物	講義	
13		生殖器系に作用する薬物	講義	
14		心臓・血管系に作用する薬物(1)	講義	
15		心臓・血管系に作用する薬物(2)	講義	
	物質代謝に作用する薬物	講義		
	救急の際に使用される薬物	講義		
	輸液剤・輸血剤	講義		
	免疫治療薬	講義		
	皮膚科用薬・眼科用薬			
	試験・まとめ			
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 (医学書院)			
参考図書文献	疾病の成り立ち 臨床薬理学 (メディカ出版) 治療薬マニュアル ※毎年新版が発行される (医学書院)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・病気に対する薬物治療を理解し、臨床薬理的な立場から薬物治療の意味を説明できる。 ・臨地実習で受け持つ患者さんに使用している薬剤を理解し、安全かつ効果的に投与し、回復を促進するために重要な知識です。 何回も薬品の一般名・商品名を調べて、薬効や投与の注意点を理解しましょう。 			

分野	専門基礎分野	授業科目	栄養と代謝	
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	1. 体の成分の成り立ちと、生体の恒常性が保たれている働きについて理解できる 2. 日常生活を営むうえで必要な栄養の意義について学ぶとともに、健康の保持・増進、検査・治療、疾患を治療するための食事について学ぶ			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	代謝総論	・代謝とは ・異化と同化 ・物質代謝とエネルギー	講義	
2	酵素	・酵素の役割、性質、分類 アインザイム	講義	
3	糖質代謝	・糖の消化と吸収、代謝 ・血糖の維持、糖新生、調節	講義	
4	脂質代謝	・脂質の消化、吸収と貯蔵 ・脂質代謝	講義	
5	タンパク質とアミノ酸の代謝	・タンパク質の消化と吸収 ・アミノ酸代謝	講義	
6	エネルギー代謝の統合と制御	・摂食時、絶食時の臓器間の代謝 ・糖尿病における代謝	講義	
7	代謝と疾患	・先天性代謝異常 ・酵素異常による発症のメカニズム	講義	
8	栄養素の種類と役割	・食品成分とエネルギー ・食品摂取基準	講義	
9.10	栄養とは 栄養アセスメント	・栄養とは ・栄養アセスメント	講義	
11	ライフサイクルと栄養 日常生活と栄養	・乳児期・幼児期・学童期 ・青年期・成人期・妊娠期・授乳期 ・高齢期の栄養 ・食文化 ・運動と栄養	講義	
12.13.14	療養生活と栄養 食事指導の実際	・検査のための食事 ・治療による回復を促すための食事 ・疾患を治療するための食事 ・嚥下障害のあるひとのための食事 ・経口摂取できない患者のための栄養管理 ・食事指導	講義 講義	糖尿病交換表P2～26 腎臓病交換表P1～24
15	まとめ 試験	まとめ	講義 筆記試験	
評価方法	筆記試験			
テキスト	メディカ出版 ナーシンググラフィカ 臨床栄養学 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 臨床生化学			
参考図書	日本糖尿病協会 文光堂 糖尿病食事療法のための食品交換表 医歯薬出版 腎臓病食品交換表			
備考				

分野	専門基礎分野	授業科目	治療論	
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	医師、看護師 他	専門経験有無	有	
学習目標	対象に行われる主な治療の目的・方法・対象への影響が理解できる			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1～11	手術療法	手術療法の目的と種類 手術療法をうける患者の特徴 手術侵襲と生体反応 麻酔法 創傷管理 術前のアセスメントと心身の準備 術中の管理 術後合併症予防と回復の促進	講義	
12～15	放射線療法	放射線の種類と性質 放射線の医学利用 健康影響とその管理 放射線診断の種類と特徴 放射線治療の適応 放射線治療の方法と進め方 放射線治療における看護の役割 画像検査における看護師の役割	講義	
	試験	手術療法 70点 放射線療法 30点		
評価方法	筆記試験			
テキスト	医学書院 系統看護学講座 臨床放射線医学 メヂカルフレンド社 経過別成人看護学 周手術看護			
参考図書 文献				
備考				

分野	専門基礎分野	授業科目	総合医療論	
受講学年	3学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 15時間	
担当者資格	医師、看護師	専門経験有無	有	
学習目標	日本における現代医療のしくみとかかえる問題を知り、看護が果たす役割を理解する			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1.2	日本における医療のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ・診療所と病院 ・一般病床、療養病床、特定機能病院 ・救急医療の現状 ・病院における医療の特徴 (クリニカルパス・在院日数の短縮) ・薬と安全性 (医薬分業・治験) ・チーム医療 	講義	実習での体験をイメージしながら学習しよう
3	現代医療の最前線 現代医療の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・移植医療 ・人工臓器の開発 他 ・薬の副作用と手術関連症 ・医原病という考え方 ・医療情報の開示と医療訴訟の問題 ・最先端医療技術のもたらす倫理上のジレンマ 	講義 講義	
4	医療を見つめ直す新しい視とこれからの保健医療福祉	<ul style="list-style-type: none"> ・患者の安全 ・医療の管理と評価 ・情報化社会と医療 ・プライマリケアの新たな展開(総合診療) ・医療におけるケアの視点(在宅医療) ・地域包括医療システム 	講義	
5~8	生命倫理または現代医療の問題について考える	<ul style="list-style-type: none"> ・生命倫理に関するテーマについて文献学習およびグループ討議を通し自分の考えを深める ・レポートまとめ 	GW	
評価方法	GW参加状況 レポート			
テキスト	系統看護学講座 総合医療論 医学書院 系統看護学講座 看護倫理 医学書院			
参考図書文献	命は誰のものか 香川知晶 ディスカバー 生命倫理とは何か 市野川容孝 平凡社			
備考				

分野	専門基礎分野	授業科目	社会福祉と社会保障	
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	社会福祉士	専門経験有無	有	
学習目標	社会福祉制度および社会保障制度のしくみについて学び、人々が生活していくためにどのような制度が関係しているのかがわかる。対象が健康や障害の状態に応じて社会資源を活用できるよう援助するための基礎的知識を養う。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	社会保障制度の概要	1.社会保障の概念・目的・機能・体系・内容 2.社会保障の費用	講義	①新聞、テレビで社会保障に関するニュース等気にかけて下さい。 ②今、社会保障の有り方が問われており、時代は「社会保障のターニングポイント」にある事を知り、社会保障は、皆さんにも密接な関係があり、医療人としては勿論、「生活者としての社会」 ①日本国憲法第25条に目を通しておいて下さい。 第1回～3回に同じ
2	社会福祉の法制度	1.社会福祉の歴史的展開 2.社会福祉サービス・担い手 3.社会福祉の財政	講義	
3	社会の変化と社会保障・社会福祉	1.社会の変化 2.社会保障・社会福祉の動向	講義	
4	医療保障	1.医療保障制度の沿革・概要 2.医療をとりまく状況・財政	講義	
5	介護保障	1.介護保険制度の概要 2.介護保険制度の課題		
6	所得保障	1.所得保障制度のしくみ 2.年金・社会手当・労働保険	講義	
7	公的扶助	1.貧困・低所得問題の理解と近年の動向 2.生活保護制度のしくみ	講義	
8	前半のまとめ	事例検討	講義	
9	社会福祉分野①	1.高齢者福祉 2.障害者福祉①	講義	①親しい障害者、祖父母が居る生徒は、「どんな生活を送ってみたいか」等の話を聴く。 ②NHKテレビ第2放送の「福祉番組」を、一度でも観てみる。 ③福祉関係のテレビ、新聞等の事件等の報道で福祉関係はないか？気にかけてみる。 ①家族、友人等が困っている時、自分は、どんな相談をしてきたか？またどんな支援ができるか？考えてみる。 ②自分の暮してきた地域の支え合いはどうだったか考えてみる。 ①看護実習から感じた事を考えてみる。
10	社会福祉分野②	1.障害者福祉②	講義	
11	社会福祉分野③	1.児童家庭福祉	講義	
12	社会福祉実践と医療・看護①	1.社会福祉援助とは 2.個別援助技術	講義	
13	社会福祉実践と医療・看護②	1.集団援助技術 2.関節援助技術と関連援助技術	講義	
14	社会福祉実践と医療・看護③	1.社会福祉援助の検討課題 2.連携の重要性	講義	
15	社会福祉実践と医療・看護④ まとめ 試験	1.社会福祉実践と医療・看護との連携 2.連携の場面とその方法	講義	
評価方法	①授業態度重視 ②筆記試験			
テキスト	系統看護講座 専門基礎分野 社会福祉 健康支援と社会保障制度〔3〕(医学書院)			
参考図書文献				
備考				

分野	専門基礎分野	授業科目	公衆衛生	
受講学年	1学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 15時間	
担当者資格	医師	専門経験有無	有	
学習目標	集団の健康を守ること、すなわち公衆衛生の歴史、意義、及びその方法論である公衆衛生的接近について理解し、また現在実施されている公衆衛生活動について学ぶ。			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	公衆衛生概論 公衆衛生の意義 公衆衛生の歴史	日本国憲法25条、WHO健康憲章 公衆衛生の定義(Winslow)、 包括的健康観の概念	講義 DVD スライド 討論	新聞、テレビのニュースや 特別番組等、マスメディア の動きに注意すること。
2	衛生統計概論Ⅰ 人口静態統計 人口動態統計	国勢調査、出生、死亡、婚姻、離婚、 死産等の統計 人口構造の変化と 公衆衛生の諸問題		自分の意見を持つように。 しかも多面的な見方が できるようになりたい。
3	衛生統計概論Ⅱ 死亡統計 疾病統計	年齢調整死亡率、各種死亡の動向 国民生活基礎調査、患者調査		
4	疫学的方法 疫学の研究手法 感染症の疫学 慢性疾患の疫学	Cohort研究と症例対照研究 感染症法について Risk factor、high risk group		
5	環境と健康 環境の衛生 環境汚染と公害 地球環境問題	各種環境要因の生体影響 典型7公害について 温暖化、オゾン層破壊等		
6	食物と健康 学校保健	国民栄養の現状 食品衛生法、食中毒物質 学校保健の現状と課題		
7	産業保健 公衆衛生行政	産業保健の歴史、産業保健の現状、 職業病、職場の健康管理、 労働衛生法規 衛生行政の体系 衛生法規について		
8	試験 まとめ			
評価方法	出席状況及び試験結果により評価する。			
テキスト	よくわかる～専門基礎講座～公衆衛生 松木秀明編 金原出版株式会社			
参考図書	国民衛生の動向 2018/2019年版 シンプル衛生公衆衛生学 鈴木庄亮・久道茂著 南江堂			
備考				

分野	専門基礎分野	授業科目	看護関係法規	
受講学年	3学年 / 後期		単位/時間数	1単位 / 15時間
担当者資格	看護師		専門経験有無	有
学習目標	保健、医療、福祉に関する諸制度の概要を学び、看護業務に携わる者の身分や業務、他職種役割を理解する			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1	医療法	目的 医療提供の理念等 定義 医療に関する選択支援 病院等の管理 病院等の人員 病院等の構造設備 診療に関する諸記録等 病院等の監督 医療計画等医療提供体制の確保 公的医療機関 医療法人	講義	
2	医師法 関係資格法	任務 免許 試験 臨床研修 業務 診療放射線技師法 臨床検査技師法 理学療法士法及び作業療法士法 視能訓練士法 言語聴覚士法 臨床工学士法 社会福祉士及び介護福祉士法、精神保健福祉士法 栄養士法	講義	
3	医療を支える法律	医療・介護の提供体制に関する法 移植医療に関する法律 死体解剖保存法 医学及び歯学の教育のための献体に関する法律	講義	
4	保健衛生法	地域保健法 健康増進法 がん対策基本法 感染症に関する法(感染症の予防及び感染症の患者に対 する医療に関する法律 予防接種法)	講義	
5	薬務法	難病支援法 医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等 薬剤師法 薬害被害者の救済等に関する法律 麻薬・覚せい剤などの取り締まりに関する法律 毒物・劇物の取り締まりに関する法律 (劇薬・毒薬・麻薬・向精神薬・覚せい剤の取り扱い) 人などの組織を用いた医薬関連法	講義	
6	労働法	労働基準法 労働契約法 労働安全衛生法 労働災害補償保険法 石綿による健康被害の救済に関する法律 雇用保険法 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の 福祉に関する法律 個人情報保護に関する法律	講義	
7	看護法	保健師助産師看護師法 看護師等の人材確保の促進に関する法律	講義	
試験	試験			
評価方法	医学書院 系統看護学講座 専門分野 看護関係法令 健康支援と社会保障制度			
テキスト				
参考図書 文献	公衆衛生が見える			
備考				

分野	専門基礎分野	授業科目	人間関係論	
受講学年	3学年 / 前期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	心理学講師	専門経験有無	有	
学習目標	<p>A 1. 対人関係の中で自分を見つめ、自己の気づきを深める 2. 他者との相互理解ができる 3. リーダー、メンバーとしての在り方を理解する</p> <p>B 多職種との連携協働の中で看護師として役割を果たせる基礎的な人間関係能力を養う。</p>			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
A スタディー センターⅢ 15時間	1. 仲間とのやりとりを通して自分を見つめ再発見する 2. 仲間とのやりとりを通して相手を理解する 3. 自分の感情・意見を率直に伝えられる 4. グループでの体験を通し自分の位置を知る 5. リーダーシップ・メンバーシップについて理解する	1. TAの理論 2. リーダーシップ理論 3. 効果的な組織活動 4. グループ演習など 5. フィードバック	講義 演習	
B 1・2・3	リーダーシップ・メンバーシップについて考える	1年生への技術指導を通してリーダーシップ、メンバーシップについて考えることができる 救護演習に向けて、自己のリーダーシップ・メンバーシップについて考えることができる	グループワーク 講義	洗髪・移乗・移送・血圧測定 2コマ+1コマ必要 1コマ分のみ授業時間 授業時間としては2コマのみ 他必要に応じて時間をとる 統合実習終了後
4・5	看護職のキャリア	看護職のキャリアとは キャリア開発の必要性 キャリア開発に必要な考え方	講義	統合実習終了後
6	看護実践における倫理	実習の具体的な看護実践場面を取り上げ看護師として適切な倫理的判断、行動について考える	講義・グループワーク	統合実習終了後
7・8	自己の意見を相手に伝えることができ、自己の考えを明らかにする。	グループにて看護観についての話し合いを行い自己の考えを深めることができる	グループワーク	授業時間としては2コマのみ 他必要に応じて時間をとる
評価方法	参加状況 レポート			
テキスト	資料配布 よくわかる看護者の倫理綱領 看護学概論			
参考図書文献				
備考				

分野	専門基礎分野	授業科目	災害医療論	
受講学年	2学年 / 後期	単位/時間数	1単位 / 30時間	
担当者資格	看護師	専門経験有無	有	
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・災害の概念、災害時の健康障害が理解できる ・災害時の医療救護活動について理解できる ・自己防災、地域防災について理解できる ・災害時の活動の法的根拠と赤十字の活動が理解できる ・赤十字救急法が理解できる ・日本赤十字社救急員の資格が取得できる 			
回数	学習課題	学習内容	方法	自己学習の指針
1.2	1. 災害の概念、災害時の健康障害を理解する。	1. 災害の概念と災害時の健康障害 1) 災害と医療救護活動の歴史的変遷 2) 災害定義 3) 災害の種類とその影響	講義 DVD	
3	2. 災害医療の特徴を理解する	2. 災害医療の特徴 1) 災害の種類と健康障害 2) 災害サイクル 2) 災害時の医療救護活動	講義 DVD	
4.5	3. 災害に関する法律と災害救護における赤十字の果たす役割を理解する	1. 減災のための法律と医療体制 2. 赤十字の災害救護活動と看護の役割 1) 災害時の社会制度 2) 赤十字救護活動の法的根拠、特殊性と役割 3) 赤十字の医療救護活動	講義	
6	4. 地域防災及び自己防災の重要性とその実際について理解する	3. 災害対応に関わる職種間・組織間連携 1. 災害と危機管理 1) 地域防災：(防災危機管理体制を知る) ・地域(自治体：災害救護対策並びに救護計画) 病院、学校(防災マニュアル) ・基幹災害センターの役割 2) 災害と情報 3) 自己防災 ・消火、地震体験、強風、避難体験 ・「通学路」「授業中」に被災した場合を想定し、予想される状況と自分の対処方法について考える	講義 DVD	・身近な地域の防災体制 ・災害への個人の備え
7	5. 国際災害救護活動を理解する。 6. 内・外の救護活動と課題を理解する。	1. 国際救援の定義 2. 国際救援活動の基本理念 3. 最近の国際救援・看護活動 4. 今後の課題		
8~14	6. 赤十字救急法を理解する	1. 赤十字救急法とは 2. 一次救命処置 3. 赤十字救急法救急員とは 4. 急病、傷の手当、骨折の手当、搬送、救護	講義 実技	
15	7. 日本赤十字社救護員の資格の取得	1. 筆記試験 2. 実技試験		
評価方法	筆記試験 出席状況 課題提出状況 実技試験			
テキスト	看護の統合と実践[3]災害看護学・国際看護学 浦田喜久子他 医学書院 いのちとこころを救う災害看護 小原真理子他 南山堂 日本赤十字社編 赤十字救急法基礎講習教本 株式会社 日赤会館 日本赤十字社編 赤十字救急法講習教本 株式会社 日赤会館			
参考図書 文献	災害看護学テキスト 概論編 南裕子他 日本看護協会出版会 災害看護一心得ておきたい基本的な知識一 小原真理子他 南山堂 救護班要員マニュアル 日本赤十字社 石巻赤十字病院の100日間 石巻赤十字病院+由井りょう子 小学館 津波からの生還 三陸河北新報社「石巻かほく」編集局編 旬報社 長野県の災害 市川健夫 郷土出版社			
備考				